

デジタル田園都市国家構想交付金事業評価シート

		担当課名	建設産業課	事業No.	1
事業名	社会・経済状況の変化に適應する「とくしま農林水産業」生産力強化戦略				
目的	県と農林水産物の6次産業化や輸出振興に取り組む市町村、産学金で設立した「とくしま六次産業化推進連携協議会」を核として、6次化商品の開発、販路開拓を図る。				
実施内容	協議会において次の事業を実施。【地方創生推進タイプ】 1)産地商談会の開催による商談等の機会の創出 2)展示商談会への出展の支援 3)商品開発及び商品改良の支援 →藍住町にんじん需要拡大協議会へ補助金の支給				
重要業績 評価指標 (KPI)	指標	目標	実績		
	新規就農者数（累計）	6人（2015-2019） → 8人（2020-2024）	6人（2020-2022）		
	町内のすくもの製造量	1,400kg（2019） → 3,700kg（2024）	2,000kg（2022）		
	学校給食の 地元産食材使用割合	44.0%（2018） → 50.0%（2023）	38.0%（2022）		
達成度	A：達成		Ⓑ：概ね達成		C：未達成

【事業費と財源内訳】

（単位：円）

2022年度	計画額	実績額	交付金充当額	備考
事業費	900,000	900,000	450,000	事業費の1/2

【2022年度の取組と課題】

とくしま六次産業化推進連携協議会の支援を受けた藍住町にんじん需要拡大協議会が、露地にんじんの冷凍加工（ピューレ・千切り・いちょう切り・たんざく切り）を試作した。価格の見直しにより、冷凍にんじんの価格を550円/kgから350円/kgへ抑えることができた。

また、春にんじん（ハウス栽培）との成分比較を行い、ハウス栽培と露地にんじんの成分についても大きな差はないことがわかった。

学校給食での提供以外の販路拡大には至っていないこと、露地にんじんの生産農家が少なく提供量に限りあること等が課題となっている。

【今後の取組】

今後も、町特産のにんじんの6次化を進めるため、とくしま六次産業化推進連携協議会の支援を受けながら、藍住町にんじん需要拡大協議会を中心に協議を重ねていく。町としても、6次化に取り組むきっかけづくりができるように、補助金制度を設けるなど支援の方法について検討する。

また、徳島県6次産業化戦略に基づき、とくしま六次産業化推進連携協議会と連携し、新商品開発、販路開拓、人材育成、農林漁業者と2次・3次事業者との交流を支援していく。

※藍住町地方創生推進会議の意見

・KPIの学校給食の地元産食材使用割合が、事業開始年度から下がっているので値段等課題はあると思うが取組を推進していただきたい。